

先人の足跡――愛国心――
オーストラリア海軍による

日本特別攻撃隊の顕彰

教育問題プロジェクトチーム
榎本 眞己 陸自71

特殊潜航艇「甲標的」(敵の主力艦隊を奇襲攻撃することを目的の秘密兵器として開発された小型潜航艇。

(全長・約24m、全幅・1.8m、最高速度・水中19ノット、乗員・2名、兵装・45cm魚雷×2、安全潜航深度・100m)

第1回目の出撃は、1941年12月7日(現地)の真珠湾攻撃の航空攻撃に併せて行われた。第2回目の攻撃は、翌年に連合国の主要国、イギリス連邦間の通商破壊を目的で行われました。

この第2回目の攻撃は東方先遣支隊と西方先遣支隊の二手に分かれ、西方先遣支隊は5月29日にはるるるるるるを越えてアフリカ東岸のマガダスカリ島の北端にある英国軍港のデイエゴ・スアレズ港を攻撃。東方先遣支隊は同月31日に太平洋を南下し、オーストラリアのシドニー湾を攻撃しました。

ここでは、この東方先遣支隊の行動がオーストラリアの人々に与えた感銘と、戦後このことが両国に及ぼした影響についてお話ししましょう。

東方先遣支隊は、潜水艦で松尾敬宇大尉(当時26歳)以下6名と、特殊潜航艇3隻を、オーストラリア・シドニー湾外まで運搬します。そこから1隻の特殊潜航艇にそれぞれ二人が乗り込み、停泊中の連合国の艦船を逐次攻撃しました。小さな鉄の塊の中にとった二人だけで、しかも座ったまま

で今までに来たこともない初めての海中を操縦し、敵を探して攻撃するので、その不安感や緊張感はいかばかりかと思われぬ。

最初に発艦したのは、中馬兼四海軍大尉と大森猛一等兵曹が搭乗する潜航艇でした。中馬艇は湾入り口の潜水艦侵入防止用の網に絡まり身動きできなくなり、自爆しました。続いて伴勝久中尉と菅辺守一等兵曹の潜航艇は、湾内に停泊していた米重巡洋艦シカゴを狙って一直線に進み、魚雷を発射しま

す。1発は岸壁へ、もう1発はオーストラリア海軍軍艦クタブルに命中しこれを撃沈し、オーストラリア軍人19名が戦死しました。攻撃後、直ちに引返そうとしますが、砲撃を受け潜航艇を損傷し、湾外に出た所で沈没してしまいました。

3番目に発進したのは松尾敬宇大尉と都竹正雄二等兵曹です。この頃には湾内の警備が厳しくなっていました

が、米軍艦シカゴを撃破しようと突進します。しかし勢い余ってか岸壁にぶつかり、魚雷が発射できなくなりました。そこで二人は艇を自沈させ、拳銃で頭を打ち抜き抱き合うようにして自決しました。特殊潜航艇はシドニー湾の南方40kmの地点で母艦に回収される予定でしたが、3隻とも帰還できなかったのです。

オーストラリア海軍のシドニー要港司令官グールド提督は、湾内に沈没した中馬艇と松尾艇を6月4日と5日に引き上げさせます。そして中で戦死している特殊潜航艇の乗組員を海軍葬により弔い、遺骨をシドニーに拘留中だった日本公使河相達夫に手渡し、同年の10月に日英交換船で日本に返還しました。

グールド海軍少将は次のように述べます。「戦死した日本軍の勇士の葬儀を我が海軍葬で行うという私に、非難が集中していることは承知しています。けれど私は、あえてこの葬儀を実行する。なぜなら、もし我が国の兵士が彼らのように勇敢な死を遂げた場合、彼らにもまた、同様の名誉ある処遇を受けさせたいためである。」

そして海軍葬の際、グールド海軍少将はラジオで国民に対して次のように演説しました。「このような鋼鉄の棺桶で出撃するためには、最高度の勇氣が必要であるに違いありません。これらの人

たちは最高の愛国者であった。我々のうちの幾人が、これらの人たちが払った犠牲の千分の一の犠牲を払う覚悟をしているだろうか」

真の愛国者はたとえ敵であっても、小さな潜航艇で大胆にも敵軍港内に侵入し、攻撃した日本将兵の勇氣と愛国心に感銘を受けたのです。そして自国にも犠牲者が出たにもかかわらず、自国の英雄と同様の扱いで海軍葬を行ったのです。そしてこの特殊潜航艇は、今なお首都キャンベラの戦争記念館に保存されています。

さて、戦後となった昭和38年10月、特殊潜航艇が保存されているキャンベラの戦争記念館のマックグレース館長は、故松尾中佐(戦死に伴い2階級特進)の遺族の所在がわかったことから、「ご子息の遺品は潜航艇とともに大事に保管しています」という手紙を送ります。そして昭和40年7月に自ら来日して松尾邸を訪問し、母堂に「ご子息に会いに来てほしい」と招待します。そのような折、九州大学名誉教授の松本唯一博士は地質学の研究で昭和39年にオーストラリアを訪れます。そして戦争記念館に立ち寄った際に、日本の特殊潜航艇と松尾中佐の遺品を見て是非、ご遺族のオーストラリア訪問を実現させたいと考え、自分の家屋敷を売

り払うと共に募金を集めます。

このようにして昭和43年4月に、中佐の母堂である83歳のまつ枝刀自(年
老いた婦人への尊敬を込めた呼び方)
と、松尾中佐の実姉・佐伯ふじさんと

松本博士の3人が、オーストラリアを
訪問しました。これをオーストラリア
国民は熱狂して歓迎し、到着した日の
現地新聞では一面トップに「勇者の母」
を報道しました。

一行は29日朝、オーストラリア海軍
のランチで湾内の特殊潜航艇が沈没し
た付近に案内され、6人の戦死者を慰
霊。その後一行はシドニー中心部にあ
る戦争記念碑に花束を捧げ、オースト
ラリア軍の英霊に黙祷を捧げました。
そして5月1日にはキャンベラに飛
び、戦争記念館を訪れました。マック
グレース氏の後任、ランカスター館長
が出迎え、芝生に安置している特殊潜
行艇に案内されました。

まつ枝刀自は報道カメラの放列の
中、恐る恐る近づき艇を愛撫しつつ外
側を一周し、潜望鏡の真下、恐らくは
松尾艇長が座っていたであろう箇所
に花輪と故郷の菊池のお神酒(みき)を
供えました。

続いて、記念館に入ると、館長がま
つ枝刀自を椅子に座らせ、松尾艇長が
最期まで腹に巻いていた血染めの千人
針を抱かせたのです。刀自は小刻みに

ふるえ、千人針の上にポタポタと涙を
落としました。展示されていた千人針
や搭乗帽などの遺品は、ゴートン首相
や関係者の特別のほからいで、まつ枝
刀自に返還されました。

そして5月2日に海軍省にスミス幕
僚長を訪ね、続いてゴートン首相とも
会談しました。まつ枝刀自は「豪州海
軍が戦争のさ中に、わが戦士に示され
た行為は、英国騎士道の発露であり、
心から感謝します」と挨拶しました。

幕僚長は「それ(海軍葬)は、日本
人が示した勇敢さに対する当然の義務
です」と答えました。またゴートン首
相は「お母さんは、立派な子息を持た
れて、うらやましい気がします。あな
たのお子さんは我々オーストラリア国
民に、真の勇氣とは何であるか、真の
愛国心とは何であるかを、身をもって
示してくださいました。心からお礼を申し
上げます」と述べました。

このようにしてまつ枝刀自一行の
オーストラリアの旅は、オーストラリ
アの人々の称賛と熱烈な感動により終
えることができました。

それから概ね半世紀が経った平成26
年7月、安倍首相がオーストラリアを
訪問し、8日に豪州キャンベラにある
国会議事堂で演説をしました。その中
で安倍首相は次のように述べました。

「1968年のことでした。一人の日
本女性を皆さんが招いてくれたこと
に、私はいまも、心打たれるものを感
じます。83歳になる松尾まつ枝さんは、
招きを受けてお国を訪れ、亡き息子を
偲んで、シドニー湾に日本の酒を注ぎ
ました。第2次大戦中お国の攻撃を
図り、湾に沈んだ小さな潜水艦に乗り組
んだのが、松尾さんの子息でした。そ
の勇猛を長く記憶に留めた皆様は、勇
士の母を日本から呼び寄せてくれた
のです。なんたる寛容でしょうか。

Hostility to Japan must go. It is better to
hope than always to remember. (日本
に対する敵意は、去るべきだ。常に記
憶を呼び覚ますより、未来を期待する
ほうがよい)。戦後、日本との関係を
始める際、R・G・メンジーズ首相が
語った言葉です。再び日本国と日本国
民を代表し、申し上げます。皆さんが
日本に対して差し伸べた寛容の精神
と、友情に、心からなる、感謝の意を
表します」

いかがですか? 国を愛する青年が
勇氣をもって遠く離れた地に小さな潜
航艇で攻撃しました。その勇氣と愛国
心に感動した敵国オーストラリアの
人々は、自国の勇者と同様に海軍葬で
この敵国兵を用い、この潜航艇をオー
ストラリア連邦戦争記念館に展示しま

した。そして戦後、その勇者の一人の
母を日本から呼び寄せます。このこと
をオーストラリアの首相はじめ多くの
人々が「勇者の母来たる」と歓迎しま
した。そして後年、日本の首相はこの
寛容なオーストラリア国民に感謝しな
がら、今後の日本とオーストラリアと
の友情を誓ったのです。

自分の国を愛することは当然のこと
です。そして他国の人も自分が生まれ
た国を愛しています。このことが理解
できれば、真の愛国者は他国の愛国者
を尊敬することが出来るのです。愛国
心は決して排他的なものではないので
す。そしてその勇氣と愛国心に感動し
た人々と、そのことに感謝した国民は、
ともに両国の友情を産みだしているの
です。

【参考資料】

- ・名越二荒之助著「大東亜戦争を見直そう」出版社・明成社
- ・豪州国会両院総会安倍内閣総理大臣演説(平成26年7月8日) 首相官邸ホームページ
- ・ブログ松山昭彦「さくらの花びらの日本人よ誇りを持とう」、「軍神・松尾敬宇とその母」
- ・ブログ「西村慎吾の時事通信」、「松尾敬宇海軍中佐、二十六歳」